

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2013年9月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第547号

昨年の春、竹島と尖閣諸島問題が日韓・日中の懸案事項としてクローズアップされた時に、韓国、中国、台湾から教会関係者を招待してこの問題について話し合う機会を設けられないかと考えました。残念ながら、資金と参加者の問題で立ち切れになってしまいました。話し合っても効果が期待できないという意見もありました。それぞれの国から参加者を招いても、正しく国を代表する意見が言えるかどうかかわからないし、話し合っても何かが変わるものでもないという意見もありました。しかし、何かが前進する効果がなくても、話し合うだけで意味があるのではないかと今も思っています。

南アフリカでアパルトヘイトについて、白人と黒人の話し合いの会があったそうです。自分達は何を考えていたのか、正直に話し合ったそうです。発言の内容は相手をひどく傷つけるものもあったそうです。互いに物事への前理解があつて、一つの出来事でも理解が根本的に相いれないものであったことも明らかになりました。話し合いは平行

線をたどって、理解の一致とか和解には至らなかったようです。しかし、この話し合いには意味があつたと参加者は感じました。相手の考え方に賛同できなくても、お互いに相手が何を考えていたのか、どう感じていたのか、理解や感じ方の違いを知ることができたからです。

ボルノー(ドイツの教育学者)が話し合いには3つあつて、互いの違いを明らかにすることを目的とした議論、少しでも歩み寄って利益を勝ち取ることを目的とした交渉、もしかすると自分の方が間違っていたかもしれないという可能性を常に残して相手の言うことを聞く対話だということです。アカデミー運動はこの第三の話し合い、対話の運

話し合いを、ハナしあい



関西セミナーハウス運営委員
春名 康範

動ですが、対話が無理でも議論だけでも意味があります。対話も、交渉も、議論も道を閉ざされると、後に出て来るものは最悪の事態です。

中国との尖閣諸島問題が報じられるたびに私の中では気になる一つの歴史があります。1945年8月15日に蒋介石がラジオで中国国民に訴えたことです。彼は、「以德

報怨(いとくほうえん)を訴えて、中国にいる日本人の軍人、民間人に復讐をしてはならない。報復は報復を呼ぶ、憎しみは永遠に終わることとはないと訴えたと聞いています。彼は、戦後処理として①1000万人を超える中国の軍人、民間人を殺戮したと言われる日本軍がしたこと、国土を破壊したこと、全てを赦して戦争賠償金も要求しない、②ソ連軍の北海道占領を反対する、③中国にいる日本人軍人・民間人280万人を

無事に日本に送り返す、④天皇制の問題は日本人自身に任せる、という4つの方針を打ち出しました。蒋介石がなぜこのような決断をしたのか、それは彼がクリスチャンであつたからであると言われています。中国の人々が、日本に対して激しく怒っているのは、この時の恩を忘れてしまったかのような振舞いに見えるからではないでしょうか。韓国の人々が怒るのも従軍慰安婦などなかったと言うからではないでしょうか。

日本クリスチャン・アカデミーも財政的には余裕がなくなつて来たようですが、存在の意味を考えて何か発信をしなればいけないと思えます。海外のアカデミー代表者と意見の交換をする機会だけでも企画してはどうでしょうか。日本の政治が国際感覚を失つて、すっかり内向きになつてしまつている今、アカデミーの使命が問われているのではないのでしょうか。韓国語で、一番を「ハナ」と言いますが、話し合いをハナしあうアカデミーになりましょう。(日本キリスト教団天満教会牧師)

関西セミナーハウス活動センター

●2013年度 修学院フォーラム
「いのち」生、老、病、死を考える」第2回
「私たちに死ぬ権利は必要なのか」

日本ALS(筋萎縮性側索硬化症)協会理事 川口 有美子さん
2013年7月13日(土)



『逝かない身体』の著者であり、今回の講師の川口さんは、ALSの中でも「完全閉じ込め状態」(TLLS)のままで8年間闘病したお母さんの介護を12年なされ、現在はALS患者さんのためのNPO法人の運営等にも携わっておられる。お話しとても啓発的で、「完全閉じ込め状態」といつても発信はできないが、受信はできるので「閉じ込め」ではないこと、血圧や体温、心拍数などで意思疎



通はできるなど学んだ。そして尊厳死問題については、法律で死の自己決定をすることの不条理を説かれた。個々の場合に尊厳死のようなものをお認めることはやぶさかではないが、治療の停止を書面で決定させる法律はアブナイという。終末期についてよく知ら

ないのにイメージだけで「かわいそう」と思うことの危険性もある。わたしたちはよく勉強する必要があるが、なによりも「生きていく」ことは良いと考え、誰であれ、とにかくいま生きている者の生を奪わないようにしようとおつ

●2013年度「開発教育セミナー」第1回
「開発教育入門セミナー Think Globally, Act Locally ～世界とつながる私～」
(協力プログラム)

2013年6月23日(日) 京都市国際交流会館
(独)国際協力機構関西国際センター(JICA関西)
(公財)京都市国際交流協会

今回のセミナーでは、はじめに全体で「開発教育とは？」と題し、開発教育の目標や目標実現のために必要な「知る・考える・行動する」という実践スタイルについての話をしました。その後、参加者は、「アクティビティを体験しよう」地球の食卓より「モノ」から考えるつながりと平和」「キャリア教育×開発教育」「国際協力に向き合う私たち」エチオピアの地球課

しゃった。参加者からも、制度や法というものが個人への配慮に欠けるものだという意見があり、尊厳死はともかくも、その法制化には慎重な立場を述べる意見が多く見られた。

題から」4つのアクティビティの中から2つを選んで参加しました。それぞれのアクティビティでは、クイズや写真を使って、世界の様々な国や地域の文化や人々の顔、暮らしぶりについて知り、その後、グループごとに、世界の人々の状況における課題点や国際協力プロジェクトを現地で提案した場合に、どのような困難が予想されるかなどを話し合いな



がら学びを深めました。「さまざまな立場の人がいることを忘れずにいたい」「だれに寄りそうのかを考えたい」「今まで知らなかったことをたくさん知ることができた」「世界の現実を知って、ショックを受け、これから自分にできることを考えていきたい」などの感想が寄せられました。



アジアプレス所属の古居みずえさんを講師に招き、講義・アクティビティ体験・話し合いを通して意見を深め合うことができた。新しい参加者6名を含む16名の参加があり、今後も引き続き本セミナーの課題として取り組んでいきたい。

第1セッションでは、パレスチナ問題の概要を理解するクイズから始め、講師制作映画『ガーダーパレスチナの詩』を視聴し、ガザで生活する女性たちに出会った。彼女たちは爆音と厳しい行動制限



●2013年度「開発教育セミナー」第2回
「世界の中のパレスチナとイスラエル」
「ガザで生きる人々に光をあてて」

アジアプレス 古居 みずえさん
2013年6月29日(土) ～30日(日)

族を目の前で失った子どもたちが体験したことを語り、少しずつ夢を語り始めるプロセスがそのまま自己回復とエンパワメントの道筋になっていた。子どもたちの姿に圧倒され、視聴する私たちの責任が厳しく問われた。

第3セッションでは、クイズでユダヤ教とイスラーム教を理解し、ロールプレイでパレスチナ問題を学んだ。次に、フォトランゲージでイスラエル・パレスチナ両国の市民や子どもたちの平和構築の取り組みに学び、参加者一人ひとりが自分にできることを分かち合って終了した。



賛助会費・後援会費・寄付金報告(1)

2013年6月1日～2013年7月31日
(順不同・敬称略)

◆関西セミナーハウス活動センター
賛助会費

北城 伊三郎	5,000
陶村 世佳子	5,000
中上 卯一郎	5,000
椿本 博久	10,000
松下 広子	5,000
島田 恒	10,000
黒田 睦子	3,000
松岡 蓉子	3,000
平野 正	10,000
中滝 孝明	5,000
田中 潤治	3,000
高寺 幸子	5,000
竹中 百合子	5,000
梅山 猛	10,000
春名 康範	10,000
有賀 のゆり	3,000
細井 敏子	3,000
北風 照子	5,000
伏木 信次	5,000
橋 俣子	10,000
岡山 孝太郎	5,000
瀬瀬 好子	3,000
東 千代	5,000
中西 和樹	10,000
野田 純一、恵津	10,000
宮田 満雄	3,000

高谷 泰市	5,000
殿村 元一	3,000
松田 光代	5,000
公益財団法人京都YMCA	10,000
大島 順子	5,000
谷口 善志郎	5,000
大谷 光真	5,000
酒井 凉子	5,000
福留 順子	5,000
奈倉 道隆	3,000
寄付金	
島田 恒	10,000
佐野 千枝子	5,000
有賀 のゆり	1,000
姫野 真知夫	10,000
立石 嘉子	10,000
金山 颯子	1,040
松本 圭子	5,000
相浦 和生	5,000
根岸 宏邦	10,000
遠藤 勇	5,000
上田 美恵子	3,000
田村 玲子	3,000
中西 綾子	3,000
鳥井 清司	10,000
丸山 まり子	7,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。
関東活動センター、関西セミナーハウス
分は次ページに掲載しております。

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書を読む講座**

「聖書によれば同性愛は罪?—わたらしい性と生のために」

講師:山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時:2013年4月~12月の第2月曜日(18:30~20:00)・原則月1回 全8回

⑤9月9日 ⑥10月7日 ⑦11月11日 ⑧12月9日

*第1~4回は終了

会場:日本キリスト教会館6階会議室

参加費:1,200円(学生500円)

共催:早稲田奉仕園

■**パネルディスカッション**

「牧師とは何か」を問う

パネリスト 小友聡さん(日本基督教団中村町教会牧師・東京神学大学教授)、根田祥一さん(クリスチャン新聞編集長)、笹森田鶴さん(日本聖公会聖アンデレ教会牧師)

司会:松本敏之(日本基督教団経堂緑岡教会牧師・関東運営委員)

日時:2013年9月9日(月) 18:30~21:00

会場:日本キリスト教会館4階会議室

参加費:500円

東 西 南 北

◎**関西セミナーハウス**

堀部丈司、囑託(フロント)、8月31日付で退職しました。

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 **日本クリスチャン・アカデミー**
 代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
 TEL 075-711-2147
 FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館6F
 TEL・FAX 03-3207-6198
 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
 E-mail:info@academy-kansai.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
 E-mail:office@academy-kansai.org

協力:日本キリスト教団出版局

■**宗教対話プログラム**

シリーズ「今、悲しみの最前線で」
 「遺族外来の現場から」

講師:大西秀樹さん(埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科教授)

日時:2013年11月16日(土) 13:00~15:00

会場:日本キリスト教会館6階会議室

参加費:1,000円(学生500円)

◆**関西セミナーハウス 修学院きらら山荘**

■**能を楽しむタペ in 修学院きらら山荘**

第12回 能『船弁慶』

日時:2013年9月27日(金) 17:30~

解説・出演:林宗一郎さん(観世流能楽師)

会場:関西セミナーハウス

各定員:50名

能観賞料金:1,500円/大学生

1,000円/中高生 800円

小学生以下無料(ご宿泊の方は無料)

■**林宗一郎を囲んでの懇親会**

日時:上記各回能楽鑑賞後

会場:関西セミナーハウス 茶室 清心庵

費用:1,000円/大学生 900円

/小中高生 800円

■**月釜 清心会**

9月8日(日) 9:00~15:00 受付(1、8月を除く年10回)

於:関西セミナーハウス

年会費:5,000円、臨時会費1,000円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2013年度修学院フォーラム**

「福祉一重荷を負う人と共に」

第1回「一人一人みんな違っていいーべてるの人たちから学んだ生きる力、暮らし方」

講師:向谷地 生良さん(北海道医療大学看護福祉学部教授、社会福祉法人浦河べてるの家理事)

日時:2013年9月7日(土) 13:30~17:30

会場:関西セミナーハウス

参加費:1,000円/学生500円

■**2013年度開発教育セミナー**

2013年度第4回フィールドワーク「日本の中のアジア、アジアの中の日本~ウトロを「歩く・見る・聞く」~」

講師:中村 尚司さん(龍谷大学人間・科学・宗教総合研究センター)

日時:9月14日(土) 13:00~15日(日) 12:00

集合:近鉄奈良線「伊勢田駅」改札前

宿泊:関西セミナーハウス

参加費:11,000円(1泊2食及びバス一部負担500円込)

定員:20名

■**2013年度修学院フォーラム**

「いのち一生、老、病、死を考える」

第3回「死にゆく人格権 一自宅で家族に看取られる死が理想なのか?」

講師:福島 旭さん(関西学院中学位宗教主事、日本キリスト教団牧師)

日時:2013年10月26日(土) 13:30~17:30

会場:関西セミナーハウス

参加費:1,000円/学生500円

賛助会費・後援会費・寄付金報告(2)

2013年6月1日~2013年7月31日
 (順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

賛助会費

古賀 博 5,000
 大鹿 康廣 5,000
 立原 敬一 5,000
 桃井 明男 5,000
 島田 治夫 2,500
 神保 正男 5,000
 松岡 俊彦 5,000
 高橋 浩 5,000
 高德 芳忠 10,000
 大坪 正雄 5,000
 中村 喜信 5,000
 斎藤 宏 5,000
 松本 敏之 5,000
 武藤 陽一 5,000
 森野 善右衛門 5,000
 中尾 久 5,000
 清水 勝彦 5,000
 宮本 昶祐 5,000

真崎 みよ子 5,000
 大橋 祐治 5,000
 戒能 信生 10,000
 曾 平統 5,000
 松島 美一 5,000
 萩原 隆司 5,000
 社団法人キリスト教保育連盟 200,000
 吉田 豊 5,000
 中井 博雅 5,000

寄付金

飯田 さかえ 3,000
 保坂 妙子 3,000
 高畑 昭久 5,000
 清水 勝彦 5,000
 中井 博雅 10,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金

(株)柴橋商会 30,000
 牛尾 宣夫 10,000
 中井 博雅 30,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。